



Newsletter

No. 33 March 31 2019

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点

今夏の思い出

南半球に位置するチリは、日本と季節が逆で、12月～2月が夏になります。夏至に近い時期は21時過ぎまで明るく、勤務から帰宅してからも日中のような状況です。

私には小学一年生の長男がいるのですが、長男の通う学校にはプールがなく、通いやすいスイミングスクールもなかったため、殆ど泳ぐことができませんでした。日本では体育の授業に水泳があるので、チリにいる間に多少は泳げるようにしてあげたいと思い、「泳げるようになること」を長男との今夏の目標に掲げました。幸いにも、我々の居住地区のマンションの大半がそうであるように、我々のマンションにもプールがついていたため、週末を中心に、余裕があるときは、平日の帰宅後にも長男の水泳の練習に付き添いました。

私自身は、ある程度は泳げるのですが、教えるとなると手順が分からなかったため、Youtubeで教え方の動画を探して、長男と一緒に研究しながら、その日の課題を決めて練習を繰り返しました。長男の泳いでいる姿を動画にとって良い点、悪い点を確認したり、上手な人の動画を探して何が違うのかを研究したりもしました。

この夏の頑張りによ、蹴伸びがなんとかできる程度であった長男が、大分上達して、プールを怖がらずに泳ぐことを楽しめるようなレベルになりました。課題を決めて一歩一歩クリアしていったことで、練習の成果が実感でき、泳ぐのが楽しくなってきたことが、上達の要因だったと思います。

ここで、私のチリでの業務に触れさせて頂きますが、主な業務は研修医師に大腸内視鏡検査・治療の指導をすることです。殆どの研修医師が初心者であるため、まずは、基本となるストラテジー、技術を教えて、繰り返し練習させて、3ヶ月の研修期間終了後に一人で大腸内視鏡検査を実践することが出来るようなレベルに達することを目標としています。

対象者や指導内容は全く異なりますが、長男の水泳も内視鏡の研修も、何かを習得する時の過程というのは非常に似ているなと思いました。

2019年度も定期的に大腸内視鏡の研修医師を受け入れる予定ですし、プライベートでも長女の縄跳びや、次女の自転車など、子ども達と一緒に取り組みたいことが沢山あります。

子ども達の成長は勿論のことですが、異国で他者の成長に関与できることも私にとっては非常に嬉しいことで、こういった機会を与えられていることに大変感謝しています。

2019年度のチリ拠点の活動、及び、我々家族のチリ生活が充実したものになることを祈念し、本巻頭言を締めさせていただきます。

小田柿 智之 消化器病態学分野



LACRC TMDU IN CHILE
Latin American Collaborative Research Center
Santiago de Chile



Contents

ご挨拶	1
JDプログラム	2
PRENECの進捗状況	3
安野特命教授チリ訪問	4
活動報告	5

ジョイント・ディグリー・プログラム

本年3月に昨年同様プログラムの総括を行うため医学部長会議を行いました。本号では会議の概要をお伝えいたします。

JDP医学部長会議の開催



JDP 医学部長会議の様子

3月28日に本学及びチリ大学の学部長及び教授で構成する学部長会議をテレビ会議システムにて開催しました。

本会議では2018年度におけるジョイント・ディグリー・プログラム（以下JDP）の総括、自己点検・評価報告書について報告及び協議を行いました。

チリと日本では12時間もの時差があるため、本会議は年1回の開催としておりますが、両大学の学部長が顔を合わせて協議する場を設けることは大変貴重な機会です。

引き続きプログラムが充実したものとなるように両大学が協力をして運営を進めて参ります。

松宮医師の帰国

松宮 由利子
東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻

時の流れは早いもので、チリへ昨年度3月に降り立ってからあっという間に一年が経過し、今年の春は日本で迎える事となりました。桜の満開を日本で迎えられる事が楽しみであるとともに、チリにおける1年間がかげがえのない時間であっただけに残念な気持ちもあります。チリでは、チリ大学とクリニカ・ラス・コンデスの協力を得て、基礎研究に必要な分子細胞生物学・細菌学・遺伝子学などをチリ大学大学院の学生と共に学ぶとともに、チリにおける臨床の実態を肌で感じて参りました。殊に、チリでの貧富や地域による医療格差を目の当たりし、改めて日本の医療のあり方を考えるよい機会となりました。ここで得た知識が早期がんの発見および予防医学分野の発展に役立てるよう引き続き精進していきたいと考えております。

このJDPが多くの人に支えられている事を感謝し、また、引き続きチリとよい関係を維持するべく、成果を残したいと思っております。



研究室スタッフとの写真

PRENECの進捗状況

大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)の最新情報をご報告いたします。

プンタ・アレナス、サンティアゴ、バルパライソ、バルディビア、オソルノ、コキンボの6都市に加えて、コンセプションでPRENECが開始されました。しかしながら、バルパライソと、開始したばかりのコンセプションで、運営に関する問題が生じたため、現在、休止状態となっています。早期に問題が解決され、再開に向かうことが期待されます。国外パラグアイでは、PRENECのPilot studyが終了し、本格的な開始に向けて準備を進めています。

PRENEC進捗報告

コキンボ ●

サン・パブロ病院
開始時期: 2016年4月

サンティアゴ① ●

サン・ボルハ病院
開始時期: 2013年6月

バルパライソ ●

ペレイラ病院
開始時期: 2012年6月

コンセプション ●

グラント・ベナベント病院
開始時期: 2018年2月

バルディビア ●

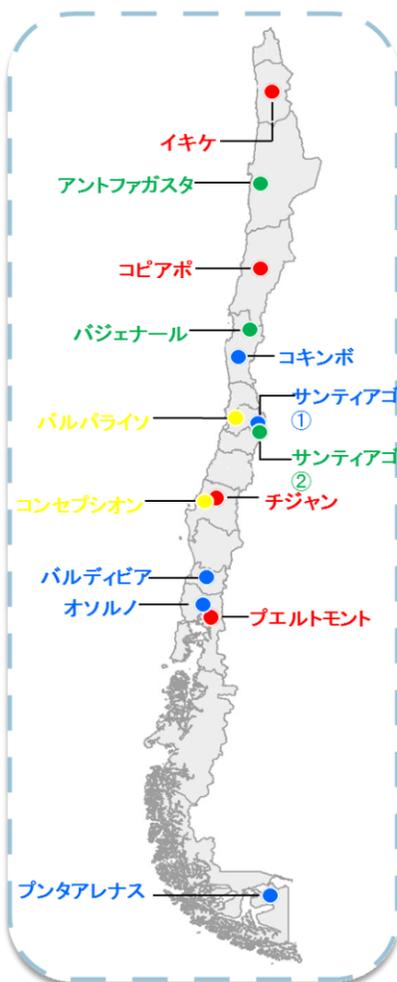
バルディビア病院
開始時期: 2016年12月

オソルノ ●

サン・ホセ病院
開始時期: 2016年12月

プンタ・アレナス ●

マガジャネス病院
開始時期: 2012年5月



アントファガスタ ●

グスマン病院
2016年1月 調印

バジェナル ●

ウワスコ病院
2016年5月 講習会参加

サンティアゴ② ●

国立がん研究所
2016年1月 調印

● 稼働中

● 再開に向けて準備中

● 講習会参加・調印済み

● 参加予定

イキケ ●

イキケ病院

コピアポ ●

サン・ホセ・デ・カルメン病院

チジャン ●

エルミンダ・マルティン病院

プエルト・モント ●

プエルト・モント病院

安野特命教授チリ訪問

3月3日～3月19日にかけて安野正道特命教授がチリにおける外科分野の臨床指導及び講演の目的でチリを来訪しました。本号ではその様子をお伝え致します。

臨床指導及び講演

サンティアゴ市内のマイブ区にあるエル・カルメン病院にて、安野特命教授が現地医師を対象に手術及び臨床指導にあたりました。手術では上行結腸癌（後腹膜浸潤高度、巨大肝膿瘍合併）の患者の拡大結腸右半切除及び肝膿瘍開放ドレナージ術に第一助手として入り、執刀していた現地医師に指導をしました。

さらに、同病院に来ているフィニス・テラエ大学の外科インターンシップ学生及び臨床実習生等に、肛門疾患全般の講義、消化管悪性腫瘍の外科治療についての動画を含む講義を行うとともに、本学やJDPIに関する紹介を行いました。

また、CLCでは、キャンサーボードやカンファレンスに参加し、毎月開催されているPRENEC定例会議及び症例検討会にて、直腸癌外科治療についての発表を行いました。

これらの活動を通して日本の消化器癌診療における優れた知識と技術をさらに広めることとなりました。



フィニス・テラエ大学の学生に講義を行う安野特命教授

JICA訪問



左より安野特命教授、JICAチリ半谷支所長、小林支所長代理

3月11日、安野特命教授が JICAチリ支所の半谷良三所長、小林としみ所長代理を表敬訪問しました。

本学のチリ関連事業、主に JDP、PRENEC、プロジェクト・セメスターに関しての今までの経緯と現状、また今後の展望のご説明を行い、これからも変わらず、本学の活動における御協力と御支援を依頼しました。

LACRC活動報告

一時帰国報告



左より吉澤学長、小田柿助教

LACRCの小田柿助教の一時帰国に合わせて、1月23日にPRENEC・JDP 合同会議が行われました。本学からは、田賀哲也副学長、植竹宏之教授、岡田卓也講師、片山智弘課長が参加しました。小田柿助教が、PRENECの進捗状況やサン・ボルハ病院での臨床活動、2018年度のプロジェクト・セメスターに関する報告等を行い、今後の展開について協議しました。同会議に参加できなかった北川昌伸拠点長には、1月28日に同様の報告を行いました。

また、2月6日には、吉澤靖之学長へ2018年度のチリでの活動を報告し、学長より激励のお言葉をいただきました。

編集後記

文部科学省研究留学生制度にて、本年4月より京都大学大学院 人間・環境学研究科へ留学することとなりました。

LACRCでの約2年間は、いろいろな事がありましたが、多くの経験をさせていただき、皆様には大変お世話になりましたこと感謝申し上げます。

今後、日本で更なる経験を積み、また将来お目にかかれることを楽しみにしております。(マルガリータ・バルハ)

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点
Latin American Collaborative Research Center
Newsletter No.33 March 2019

[発行日] 2019年3月31日

[制作] Latin American Collaborative Research Center
Tokyo Medical & Dental University
Clínica Las Condes

Lo Fontecilla 441, Las Condes, Santiago, Chile

Tel: (56-2) 2610 3780

Email: LACRC-CHILE.adm@cmn.tmd.ac.jp